

## アジア研究教育ユニット（特別経費）平成 29 年度教育研究報告書

<b>事業課題名</b>	社会学関連講義を補完する英語セミナーの実施
<b>代表者名</b>	安里和晃
<b>事業概要</b> (600 字程度)	<p>社会学関連講義を補完する英語セミナーを実施する。内容は社会学理論、ジェンダー、福祉、移民、質的調査などに関連するものとする。英語によるセミナーを広く受講生に展開するために2週間の滞在を念頭に、複数のセミナーを開催する。昨年度まで開講してきた非常勤講師による授業が今年は開講できないため、重要な機会となることが想定される。</p> <p>新専攻の設置もあり、英語による講義の受講の重要性が増す中、社会学関連の専門性を持つ英語セミナーの実施は、研究・教育上の観点から意義あるものだと考えられる。昨年度まで開講してきた非常勤講師による授業が今年は開講できないため、重要な機会となることが想定される。</p>
<b>成果の概要</b> (800 字程度)	<p>フランスより研究者4名を招聘し、11月30日と12月1日に“Capitalism, Welfare State and Intimate Life: Toward a Theory of Human Reproduction in Mature Societies”と題したセミナーを実施した。当初は1名の教員に長く滞在してもらい講義を担ってもらう予定だったが、より多くの研究に触れるという観点から、日本に滞在中の研究者をより多くレクチャを担ってもらう方法をとった。本レクチャは市場経済と福祉国家と家族および親密圏を統合する理論枠組の生成をめざしており、経済と社会の関係に焦点をあてたものである。特にレギュレーション学派の創始者ロベール・ボワイエも含まれるだけでなく、日本からも報告が行われ、アジア諸社会を正当に位置づけることも意図されている。報告は具体的に以下のとおり開催された。“Capitalism, Welfare Regime and Intimate Sphere: towards a new theoretical framework”, Robert Boyer (EHESS) “Growth regimes, demography and welfare: A perspective from régulation theory”, Yohann Aucante (EHESS) “Historical paradoxes of the Nordic welfare regimes”, Antoine Bozio (EHESS) “Incidence of Social Security contributions: Evidence from France”.また、大学生、大学院生にも広く呼び掛けた結果、社会学、あるいは関係部局の学生、大学院生の参加は20名程度であった。市場経済と福祉国家、市場経済と社会の関連について系統的なレクチャとなったと考える。また、招聘者以外にも報告の場が設けられたため、日本やアジア諸国の視点なども反映された。</p> <p>また、2月22日にはGuillaume Ladmiraal氏による“The parentalization of social relationships in prewar Japan : the State is one huge kinship network”と題したセミナーも実施した。</p>